『レッドゾーン戦略』 実施第1弾

県内事故ワースト１位「幕張４丁目交差点」の対策に着手します。

～　交通事故の削減を目指し、『千葉地区道路見える化計画』がスタート　～

記者発表資料

■「千葉地区道路見える化計画」の実施

現在、千葉国道事務所では、千葉市内の一般道路において、道路拡幅・交差点改良・バスベイの整備など、様々な対策を行っています。

この度、千葉国道事務所では、交通事故の削減に向けて、レッドゾーン戦略に基づき「国道14号 幕張4丁目交差点」の改良に着手することになりました。

【幕張4丁目交差点の概要】
- 平成16年、17年　県内事故件数ワースト1位
- 死傷事故率923件/億台キロ(レッドゾーン区間)

対策の実施にあたっては、道路利用者の皆様に広く取り組み内容などを『見える化』し、実施してまいります。[道路見える化計画]

まず、その取り組みの第一歩として、関係者合同の現地調査を下記日程で行います。
（参加予定者：千葉市副市長、千葉西警察署長、千葉国道事務所長）

また、道路利用者の皆様に事業の目的を分かりやすく、見えるように現地に看板を設置します。

『千葉地区道路見える化計画』現地調査

◆日　時　　平成19年8月6日（月）　10時～

◆場　所　　国道14号　幕張4丁目交差点（千葉市花見川区）

現地調査終了後、千葉市花見川区役所において意見交換会を実施します。

※取材をご希望の方は、別紙「申込書」に記入のうえ、ご返信をお願いします。

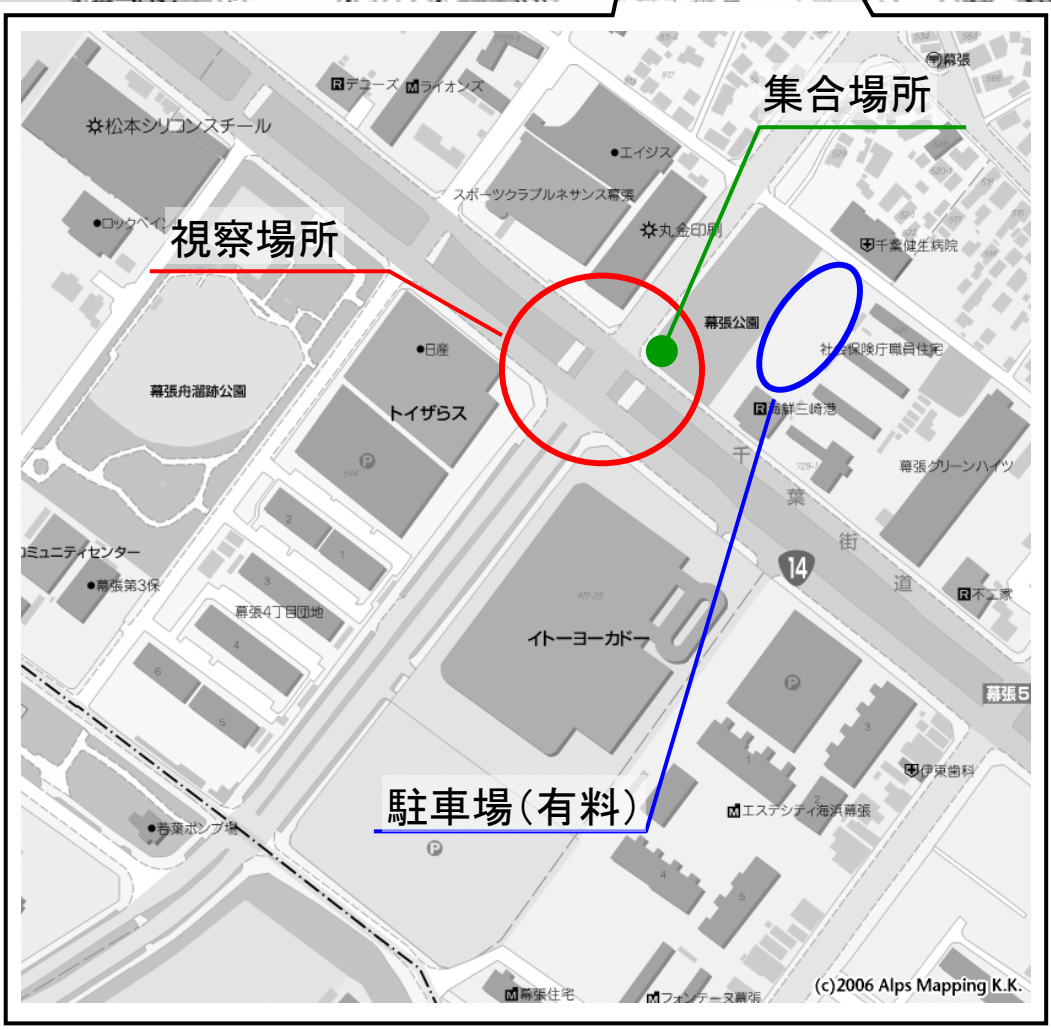
【レッドゾーン戦略　－対策箇所の「選択と集中」－】
- 昭和40年代の「交通戦争」の頃のように、車が1億km走る間に平均で 300件の事故が発生している道路(レッドゾーン)が、全国の国道・都道府県道にまだ5%あり、この区間に死傷事故の25%が集中しています。
- 関東地方整備局では、平成19年度に交通事故対策として、レッドゾーン戦略のもとで事業の重点化を図り、集中的な対策を実施してまいります。

平成19年7月31日（火）
国土交通省　関東地方整備局　千葉国道事務所

発表記者クラブ		
竹芝記者クラブ	横浜海事記者クラブ	神奈川建設記者会
千葉県政記者クラブ	千葉市政記者クラブ	

問い合わせ先		
国土交通省　関東地方整備局　千葉国道事務所　電話043-287-0311（代表）		
計画課長	武藤（むとう） 聡（さとし）	（内線301）
交通対策課長	岩崎（いわさき） 辰志（たつし）	（内線471）

現地調査場所：幕張4丁目交差点 （10：00～）



※車でお越しの方は、周辺に駐車場（有料）がございます。

別　紙

FAX送信先：０４３−２５６−０８４１
千葉国道事務所　計画課　　武藤　宛

「千葉地区見える化計画」現地調査に関する　申込書

■日時：平成19年8月6日（月）

10:00　現地集合[国道14号　幕張4丁目交差点]
10:05　現地視察（30分程度）
11:00　意見交換会[花見川区役所]（30分程度）
11:30　終了

■参加

□ 出席　　□ 欠席

ご 芳 名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

社　名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

御部署　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

電　話　：＿＿＿＿＿＿＿＿ ファクス：＿＿＿＿＿＿＿＿.

E-mail　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

ご同行者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

当日のご連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

※お手数ですが、8月3日(金)までご返送いただけますようお願い申し上げます。

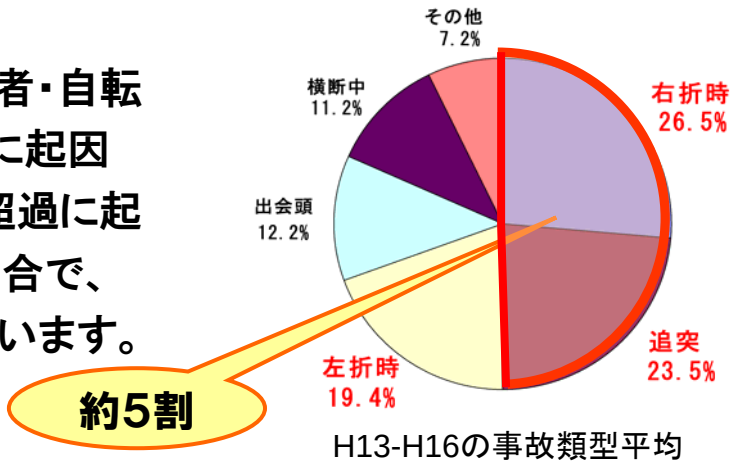
千葉地区道路見える化計画
－　国道14号　幕張４丁目交差点改良　－

■平成16年･17年　県内事故ワースト１

■死傷事故率９２３件/億台キロ（レッドゾーン区間）

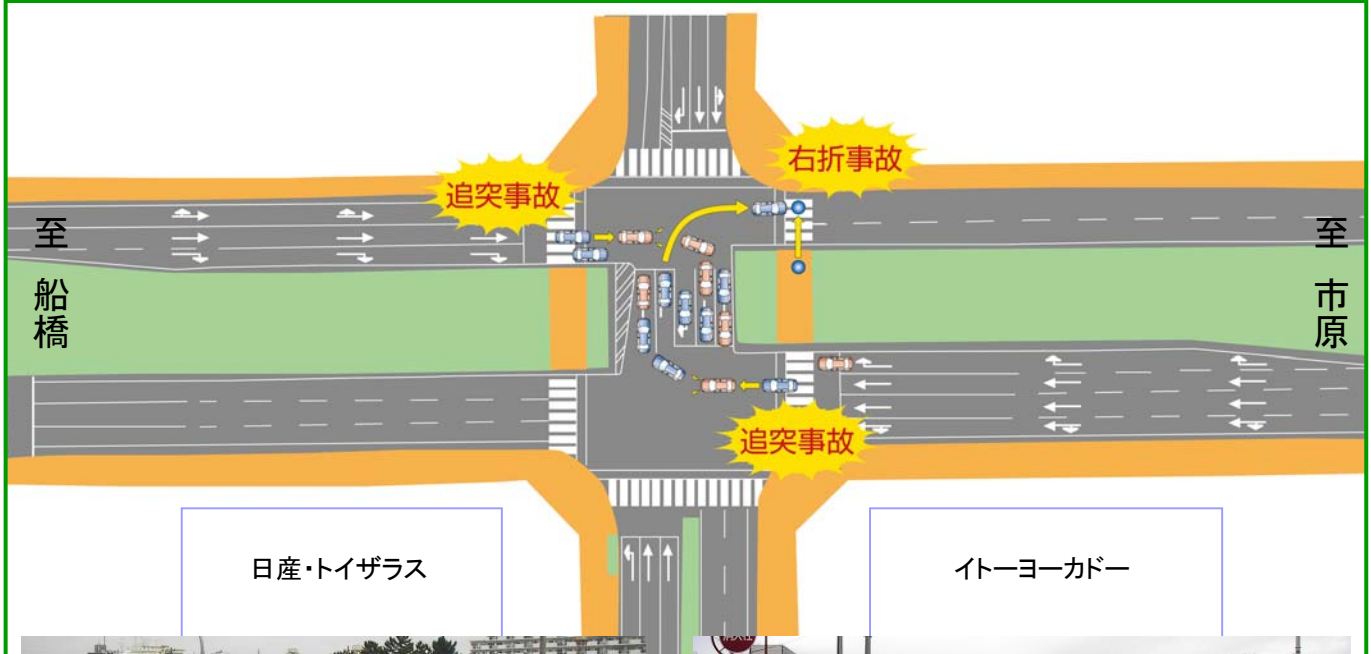
■事故の主な原因

交差点が大きいために歩行者・自転車と遭遇する確率が高いことに起因する右折事故(約27%)、速度超過に起因する 追突事故(約24%)の割合で、交差点事故の約5割を占めています。



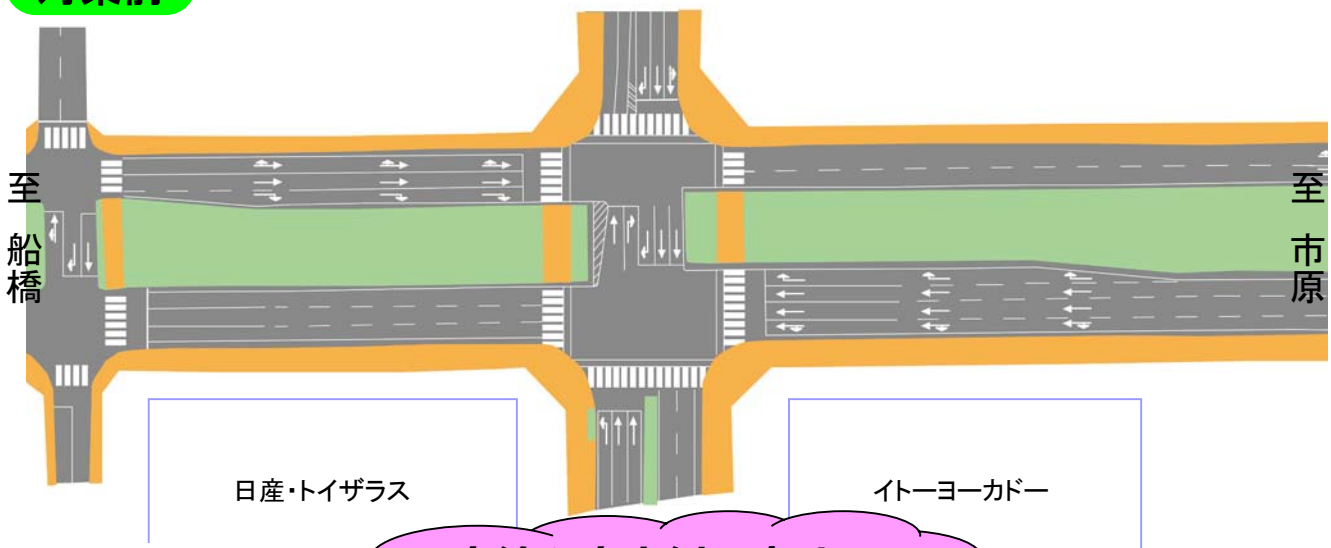
H13-H16の事故類型平均

■事故状況図



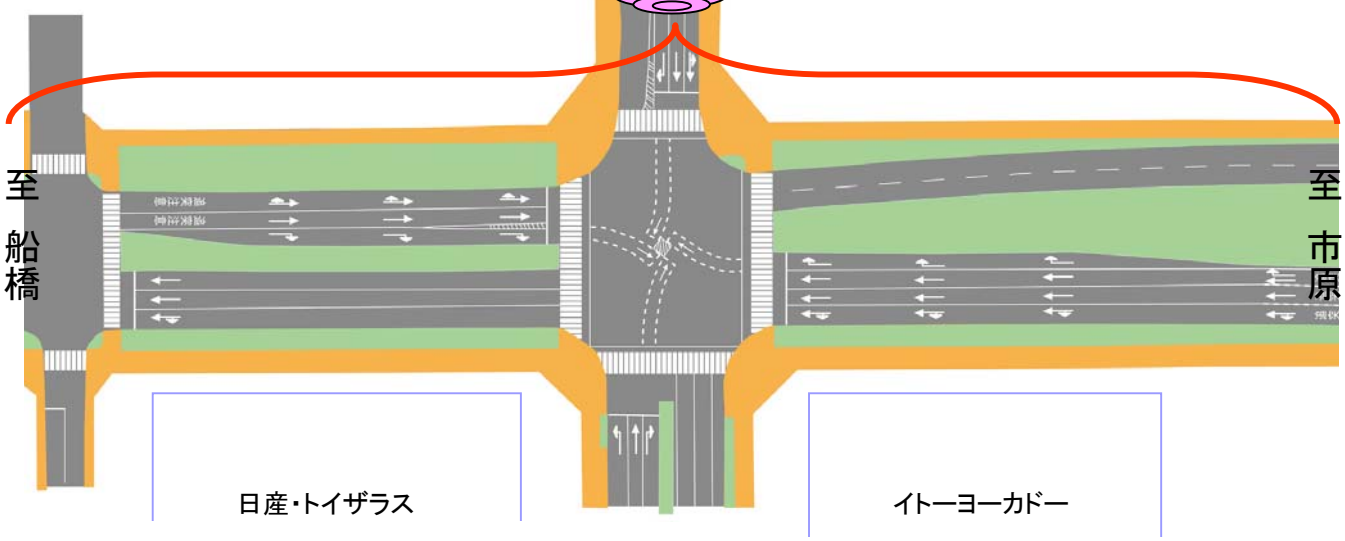
■対策イメージ

対策前



車線を中央側へ寄せて、交差点をコンパクト化

対策後



対策内容

交差点全体を『コンパクト化』して、右折車と歩行者・自転車との事故や車の追突事故を防止します。

今後の予定

今後、関係機関と協議し、工事については、今秋頃の着手を予定しています。

看板の設置

道路見える化計画
課題が見える・やり方が変わる

関東地方整備局では、8月から大規模事業や重点的に実施する事業（レッドゾーン他）などにおいて、この事業は**「何のために」「誰が」「いつまでかかるか」**を道路利用する方々へお伝えするため、**新しい事業説明看板を一斉に導入**します。

新しい事業説明看板のポイント

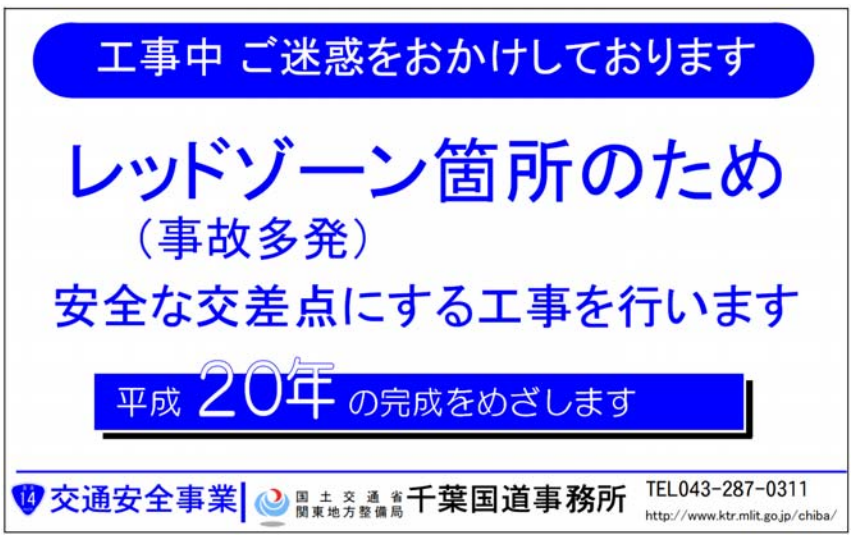
◆**何の目的**で、**何が改善されるか**を表示します。

◆**開通、完成する時期を表示**します。

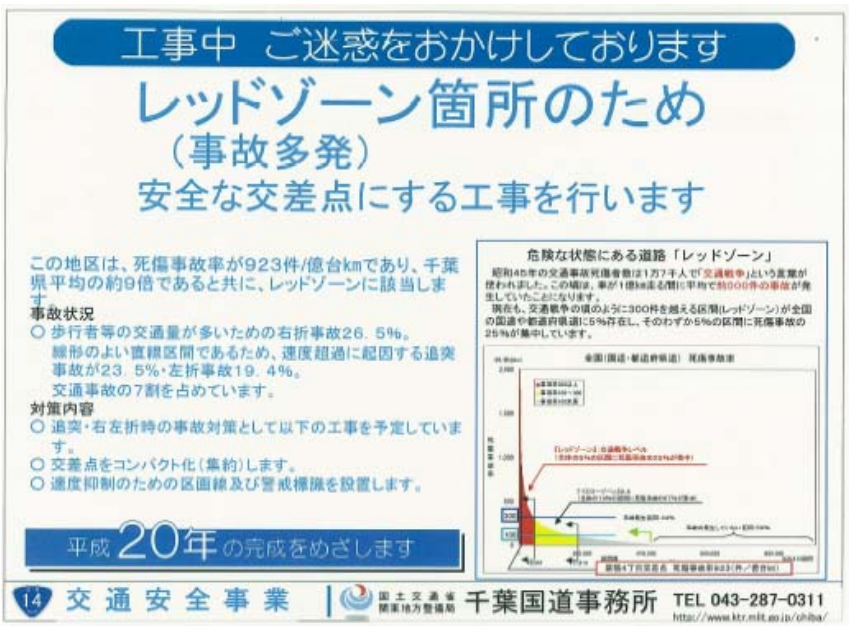
◆関東地方整備局の道路事業の看板であることが一目でわかるように、**統一的なデザインを使用**します。

■「幕張４丁目交差点改良」事業説明看板の例

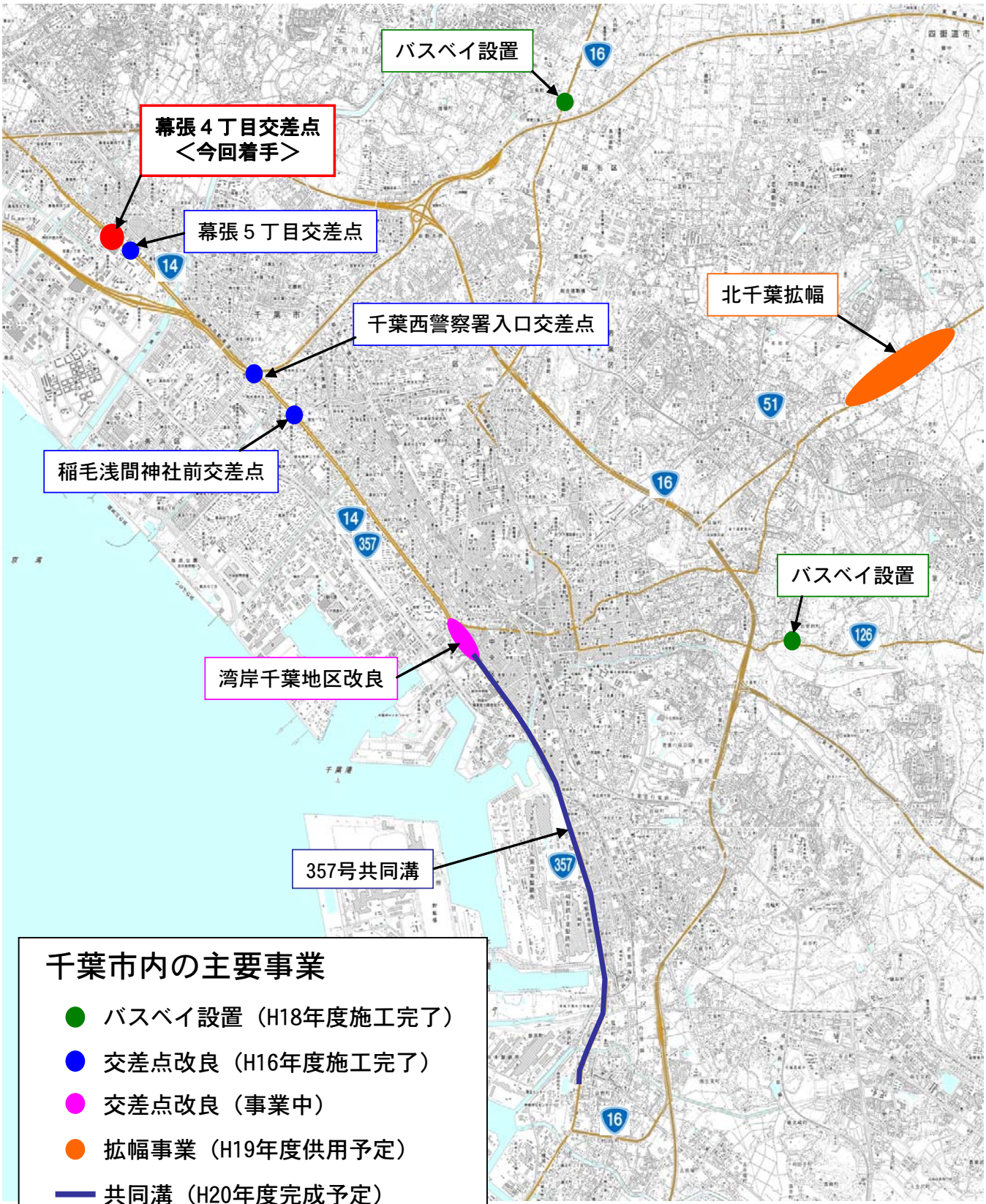
■ドライバー向け



■歩行者向け



■千葉地区道路見える化計画［千葉市内の主要事業（直轄事業）］



千葉市内の主要事業

- バスベイ設置（H18年度施工完了）
- 交差点改良（H16年度施工完了）
- 交差点改良（事業中）
- 拡幅事業（H19年度供用予定）
- 共同溝（H20年度完成予定）

《参考》 交差点改良事例

道路見える化計画

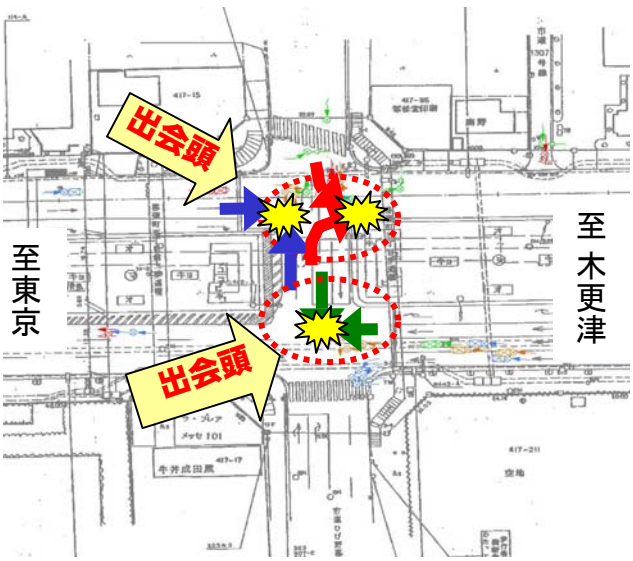
国道14号　幕張５丁目交差点

安全対策後の状況

対策前（H15・7）

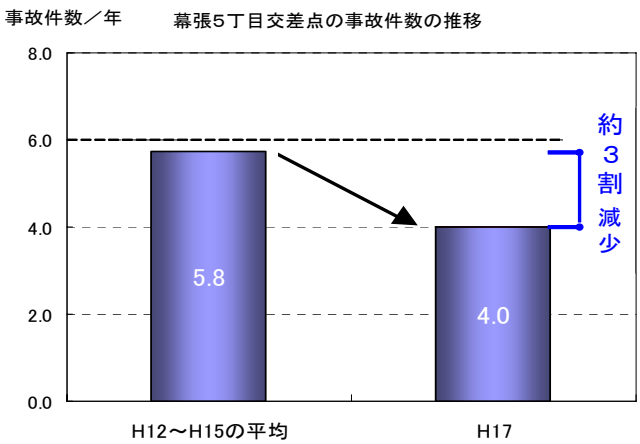
対策後（H17・1）

対策の効



H12～H15事故データ	
事故類型	件数
出会頭	12
追突	5
その他	6
合　計	23
年平均（件/年）	5.8

H17事故データ	
事故類型	件数
出会頭	1
追突	3
その他	0
合計	4



対策前

事故件数の内、**4割**が「出会頭事故」

対策後

H17　**3割**近い事故削減効果の確認

《参考》

道路行政は選択と集中へ

レッドゾーン戦略 ―「必要な道路」に重点投資

「交通戦争」の頃のような危険な状態にある道路（レッドゾーン）が残っています。

○S45年の交通事故死者数は1万7千人で 、「交通戦争」という言葉が使われました 。

○その頃、車が1億km走る間に平均で 300件の事故が発生していたことになります。

○現在は100件まで下がってきましたが、今でも欧米と比較すると高い状況です。

○交通戦争の頃のように300件を超える区間（レッドゾーン）が全国の国道と都道府県道（18万km、93万区間）に、まだ約5%存在します。

レッドゾーン・イエローゾーン以外の区間では、原則として事故対策事業を実施しません。

○わずか5%の区間のレッドゾーンに、死傷事故の２５%が集中しています。

○この区間に集中して対策することが、事故率の低減に直結すると考えました。

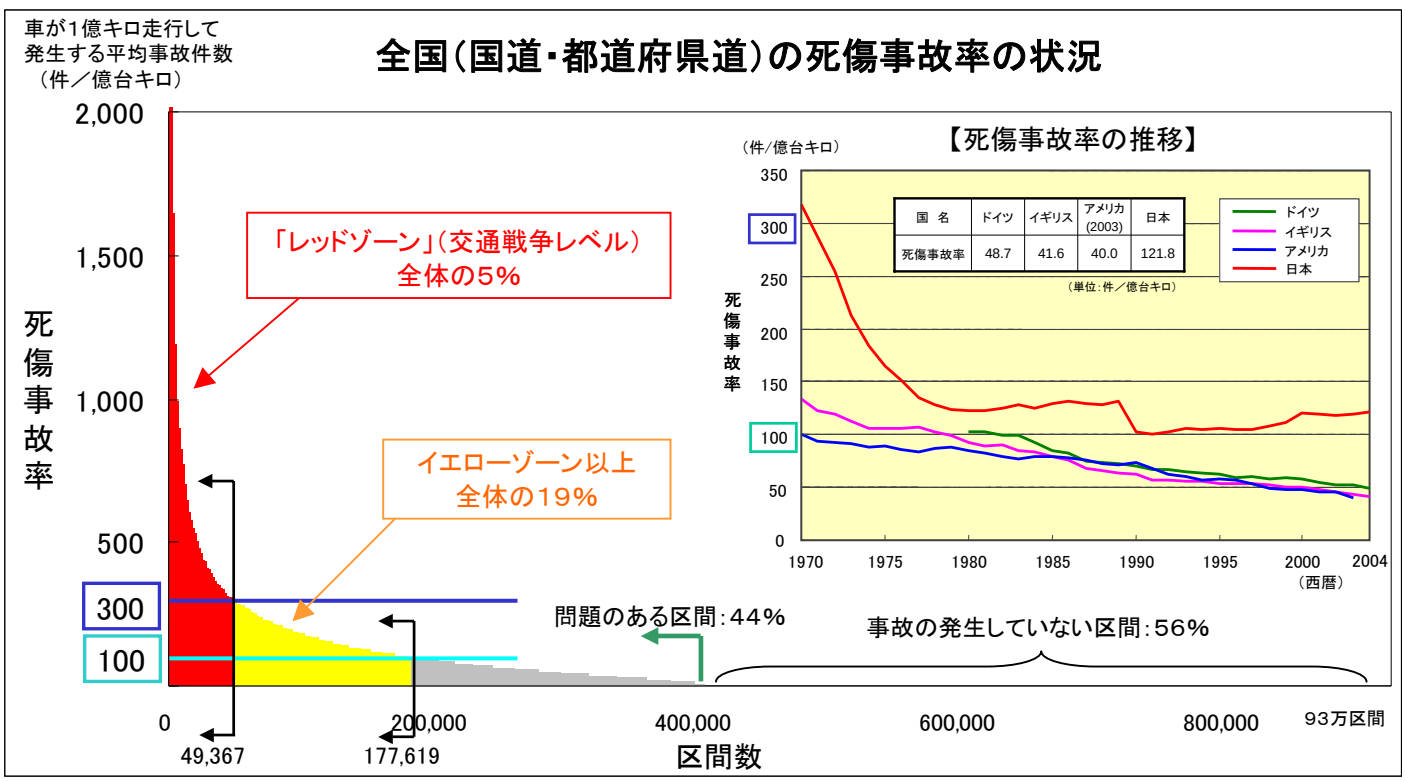
○また、100件を超える区間（イエローゾーン）も含めた19%の区間に死傷事故の67%が集中しています。

レッドゾーンに集中して対策を実施します。

○関東地整で、平成19年度に交通事故対策の事業を行うのは226箇所。予算（交通事故重点対策事業費）の総額は約156億円です。

○226箇所中、99%の箇所が、レッドゾーン・イエローゾーンの区間に該当し、ここに予算の98%を投入します。

○特に、レッドゾーンの区間に、箇所の67%が該当し、予算の65%を充てることにしています。



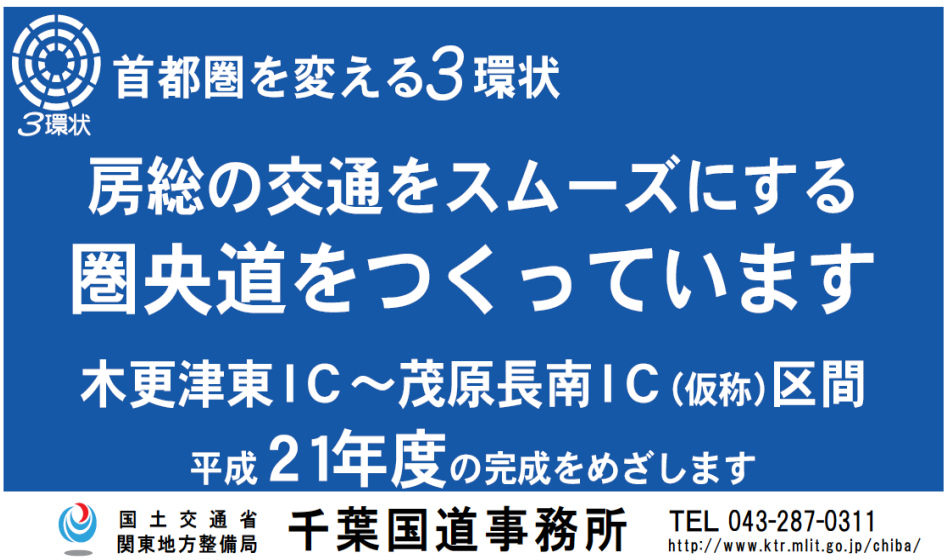
※全国の国道・都道府県道18万kmにおける4年間（H13～H16）の事故データから作成

《参考》

今後の「新しい事業説明看板」の設置箇所

千葉国道事務所管内では、「幕張4丁目交差点改良」の他、**圏央道**、**柏地区道路見える化計画**、**国道357号共同溝**、**北千葉道路**などでも設置します。

■千葉国道事務所管内の看板設置箇所

■柏地区道路見える化計画

■首都圏中央連絡自動車道（圏央道）